

平成29年度第2回奈良市高齢者保健福祉推進協議会の意見の概要	
開催日時	平成29年10月27日（金） 午後1時30分から午後4時まで
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第22会議室
意見等を求める内容等	1. 奈良市老人福祉計画及び第7期介護保険事業計画について 2. その他
参加者	出席者 11人 ・ 事務局 13人
開催形態	公開（一部非公開） （傍聴人 3人）
担当課	福祉部 介護福祉課
<b>意見等の内容の取り纏め</b>	
<p>事務局による「奈良市老人福祉計画及び第7期介護保険事業計画について」概要説明があり、計画の基本的考え方及び施策の展開について各委員より意見等を求めた。</p> <p>《第7期介護保険事業計画策定の基本指針（案）についての説明》 職員より、概略の説明を行う。 委託業者より～奈良市老人福祉計画及び第7期介護保険事業計画（素案）に基づき説明。</p> <p>《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》 座長：奈良市の人口は減少傾向にあるが、高齢者の人口は増加し、要介護認定者数も増加しているが、2025年にピークを迎え下り坂になったときの市民の生活をどう考えるのかも踏まえながら、先日作成した地域福祉計画の「ひとりぼっちゼロ」この言葉を共通の言葉として住民と協力し、作成していくことが必要。中核市の中でも高齢者の増加は早い市であり、過疎化の地域も踏まえながら行政はどのようにしたらよいかを計画してほしい。それでは、各委員の意見をいただきましょう。</p> <p>委員：ある地区の敬老会に参加した時に69歳以上を招待したところこの地区の総人口760人ですが、240人が対象者でした。30%以上となり、65歳以上は40%となります。この地区は過疎化も進んでおり、地域住民が参加し防災、自治連合会など、若い方は仕事等で参加できず、高齢者の住民が中心となっている。65歳で定年退職を迎え、100歳まで生きるとしたら35年間子供たちと関わっていけるが、本来であ</p>	

れば、地域全体で関わっていくことがよいのですが、特定の人がいくつも受けざるを得なくなっており、地域も疲弊している状況をご理解いただきたい。

座長：地域の疲弊を認識することは大切なことです。介護保険の供給システムから総合事業の生活支援システムにそのまま移行するには無理があります。地域共同のため居場所と役割を明確にし、満足いくような地域づくりが必要と考えます。包括支援センターやケアマネは努力してくれています。介護保険の供給システムは見えてきました。奈良市はどのように展開していくかの努力が必要です。

委員：今回の計画案は、どの町に当てはめても大丈夫な内容となっていると思います。もっと、奈良市の具体性を出してほしい。たとえば、小学校の生徒が減っており、運動会が寂しいところがあります。包括圏域等の人たちが一緒になって参加できるような街づくりをしてほしい。介護保険の負担は1割2割と段階があるが、1割で3万円の場合2割になると6万円になる。この負担では、介護保険が使えない。保険料が払えない。の人がいる。在宅でといわれていますが、奈良市としてどのように繋げていくかが大切である。

座長：負担が増えていき、保険料が増え、国は制度を改正していくが、後は市町村で対応となっている。どう繋げていくかが課題です。法改正をどのようにみているかご意見いただきたい。

委員：国の動向は自立支援＝改善を目指す方向で動いているが、ケアマネがこの定義を理解し、質をあげ、ケアマネジメント支援を行っているかが、大切である。主任ケアマネの活躍の場を計画に取り上げていただき、地域ケア会議の位置づけをしっかりと明記いただき充実を図っていききたい。そのことで、奈良市の独自性が出るのでは。

座長：今後、ケアマネや、包括が益々大変になるが、住民目線での地域ケア会議のありかたや、地域住民、社協の協力も必要と考えます。

委員：この計画案は、漏れのないよくできたものと思いましたが、社協の出番がありません。専門職の人たちの立ち位置が明確になっていない。支援コーディネーター・見守りをどうするのか、権利擁護の相談のことなど、地域の意見をどこで反映させるのか、社協はどこで協力をしていくのかを明記していただき、「包括ケアシステム基本構想」にも社協の立ち位置が記されているので沿った形にしてほしい。

委員：この計画について、記載がないという意見ではなく、ここはこうして欲しい等の意見のほうが良いと思います。わからないことは聞く、を行っていただき、ケアマネの話もたとえば、ケアプランには課題が全てつまっていると思います。その中から、見えてくる問題点を検討してほしい。そうすれば、奈良市の独自性が見えてくると思

います。たとえば、共生サービスの位置づけで、特養の短期入所には空室があると聞きます。限られた施設や職員を有効利用できるように、たとえば、ショートの一部屋を事業所が一定期間借り上げ、利用していくなどの奈良市の独自方法を検討していき計画へ反映させること。また、たとえば、困っている人の数、期間の長さ、内容を調べ何が大切かをアンケートの結果も踏まえながら考えていくことも必要と考える。その中から、奈良市として本当に施設が必要なのか、障がいとの共生をどのように考えていくのか、また、奈良市の包括ケアシステム構築のため、福祉計画はもちろん、医療の計画も視野におきながら、総合的にあり方を検討していく必要がある。

座長：介護予防と健康づくり。国も社会参加をうたっているが、参加するためには、どうしていくかを明記すること。保険料の改定時には、きちんと説明できることが必要。

委員：医療と看護で看護の目線で資料を確認したところ、1か所のみの記事がありました。他に、医療の記事はあっても看護師の施策がない。社協と同じように、計画のなかに、記載していただき、関わっていきたい。

委員：地元の民生委員に関わった人の話ですが、各家でのなにかあったときの身の振り方を聞いたそうです。大切なことは現場の状況がつかみにくいことです。生活の中でいやなこととか、外には出しにくい。一人娘や兄弟などにいざとなったらそちらに行く。という話でした。まずは、知るということが必要だと思います。

座長：地域福祉計画でも権利擁護センターの建設が予定されていますが、要介護者の状況、家族の状況などの把握のためにも、民生委員の仕事を知る、ということが大事です。

委員：施設利用者で自己負担が2割とはいえ、何百円、何千円のサービス費も払えない人もいます。介護タクシーが必要な方が使えず実費負担する人もおり、施設の人ならなんとかなる場合もあるが、一人暮らしの人は難しいケースもある。また、給付制限を受けてサービスを使えない人もいます。社会的背景も年々変化しており、今後の計画では、在宅での生活を支えられる計画作成となっただけではあるものの、現在の施設の状況だけではなく今後の背景も考慮し、第7期を考えていかなければならない。具体的な内容の記載も必要と考えます。それぞれの分野の横の繋がりを持ち、また、知っていくことが社会貢献に繋がると思います。

委員：訪問看護は大変な仕事をされていると聞きます。80代のご夫婦で、2人の息子がおられる方で、普段は、ごはんは食べている。ちゃんとやっている。と言われていたが、米びつを見ると黒いものがあり、よく見るとネズミの糞だったそうです。高齢者はプライドも高く、「お米かえてあげるね。」と声をかけ、ヘルパーとの連携をとり、対応した。サービス利用している方でさえこのような現状があります。制限を受けて

いる方、サービス利用ができない方はどんな状態だろう、と考えます。お互いに情報交換ができるということが大切だと考えます。

座長：国が掲げる「尊厳」という言葉が記載されているが、内容を考えないといけない。

委員：資料はよくできていると思う。医療・介護の連携がとれ、包括ケアシステムを構築できたとしてもお金のある人もない人にも、すべての人を含めた包括ということを考えていく必要がある。地域包括の期待は大きく機能強化を掲げているが、あまりに包括を中核としてしまっていいのか。具体的にはどのようにするのか、を考える必要がある。医療介護連携支援センターの設立がありますが、新たな中核となるもので具体的にどうするのかを考察して盛り込んでいくことだと思います。

座長：奈良市の市立病院は介護と医療の連携に取り組んでいますか。

委員：市立病院はあくまでも医療施設なので、退院時の連携のみ取り組んでいます。在宅に戻られてからの連携をどのようにしていくかが必要でしょう。

委員：奈良市の各病院では、ほとんどがなんらかの在宅支援センターを併設されていて、概ね繋げていかれていると認識しています。また、各包括支援センターには、薬剤師を配置し、薬局も設置されており、連携を図っています。その中で、1法人が2か所の包括を経営しているところがありますが、できれば、1法人1か所でいろいろな法人が手を挙げてほしいと思います。

委員：先日、地域フォーラムで認知症の講演等を行いました。ある団体の方が各窓口で配布して周知していきたいと資料を取りに来られました。このような連携が大切だと感じました。

座長：第7期では、地域性をみて、安定層だけではなく、団地等の状況も踏まえ問題点をあげれば、活動する側の目標が見えてくるのでは。

委員：基本理念は、目指すところは同じであり、個人の尊厳も繋がりがなければ、繋がらない。と考えます。

座長：たくさんのご意見ありがとうございました。貴重な意見を踏まえ、第3回には、概ねの計画作成を行い、最終検討をしていきたいと考えます。

続いては、施設整備の見込みについてまだ確定値ではなく、この件につきましては非公開であり、現状報告とします。